

第30回柏崎市学区等審議会 概要報告

1 日 時 令和6年(2024年)1月12日(金)午後6時30分～午後7時31分

2 会 場 柏崎市役所4階 4-3、4-4会議室

3 出席者

- (1) 委員 17名 阿部会長、徳永副会長、五十嵐委員、池嶋委員、大谷委員、小林(眞)委員、小林(美)委員、関矢委員、遠山委員、中村(豊)委員、中村(義)委員、拝野委員、宮坂委員、矢代委員、山田委員、吉田委員、井比委員
- (2) 説明者 2名 櫻井市長、近藤教育長
- (3) 事務局 6名 宮崎教育部長、田辺教育総務課長、矢沢学校教育課長、山之内学校教育課主幹、伊比教育総務課課長代理、茨城主査
- (4) 傍聴者 0名
- (5) 報道 3名

4 都合により欠席した委員 3名 片山委員、北村委員、富川委員

5 会議概要

- (1) 開会 阿部会長
- (2) 報告事項
答申を受けての市の対応について
- (3) 教育長あいさつ
- (4) 市長あいさつ
- (5) その他
- (6) 閉会

質疑・応答

発言者	発言概要
-----	------

【開会あいさつ】

会 長 : 波乱の年明けとなり、皆様も複雑な気持ちで新年の日々を過ごしていると思うが、本日は第30回の学区等審議会である。今後、特別な事情がない限り、3月末の任期を待たずに、本日が最後の審議会となる。

最後の挨拶は後ほど時間をとってあるので、ここでは昨年末に市教育委員会へ提出した第2次答申について報告し、挨拶としたい。

櫻井市長、近藤教育長からお越しいただいた中で、報告というのは誠に恐縮だが、答申を受けての市の対応を聞く前に報告する必要があるため、お許しいただきたい。

第2次答申は、12月26日に市役所1階の多目的室で行われ、私と徳永副会長で出席した。答申文を近藤教育長に手渡した後、私から説明した。

諮問を受けた2件の日吉小学校と中通小学校の統合案、剣野小学校と鯨波小学校及び米山小学校の統合案に対する主文及び主文の説明は、答申文を読

み上げた上で、本審議会の基本的な考え方によって判断したと強調したが、内容に関しては主文の説明に集約されているため、特に口頭での補足はしなかった。

審議の経過は、2件の統合案に関する具体的な部分は、答申文に加えて若干詳しく述べた箇所はあるが、内容的に特に新たなことは言っていない。

市と教育委員会への要望では、口頭で要望をした事項や、私の思いなどを何点か補足した。

1点目は、統合校の校名、校歌などを新しいものにするということを基本としてほしいという要望に関して、答申文の記述に加えて、校舎が残る方の学校の校名などをそのまま使うというやり方では、今後の統合計画にも影響するとの懸念も付け加えた。

2点目は、統合対象校区の国道8号の歩道整備の要望について、委員から指摘のあった具体的な問題を補足している。

3点目は、次期統合案への準備を早期に始めるべきとの要望に関連し、既に昨年指摘した事項であったが、2024年度、2026年度の統合案に対し、市から地元への説明や意見聞き取りの期間が短かったこと、学区再編方針の策定や提示の仕方に問題があったことを改めて申し上げた。

4点目は、第1次答申時の要望に引き続き対応をお願いしたいということの中で、通学バスに関して、今回の統合案では通学バスを途中で乗り換える児童がいることから、不安解消に配慮してほしいことを申し添えた。

5点目は、同じく第1次答申時の要望との関連で、長期的な市立小・中学校の在り方について早期に検討を始めてほしいと改めて要望した際、このことは今回の審議の中で痛切に感じたことであると強調した。

なお、説明の最後に、答申については、審議会が公平な立場で、児童にとってより望ましい教育環境を考えての意見であること、要望については、すぐに対応することが難しい部分もあるが、私達が率直に感じてきたことであり、前向きな取り組みを重ねてお願いしたいと申し上げた。

私の説明に続いて、徳永副会長が「地域の人、委員の意見は多様で、難しい判断だったが、公平・中立・客観的に、子ども達にとって大切なこと、より多くの人に納得していただけるものを目指した」「人口減が厳しく、学区再編の問題は避けて通れない、住民とともに作り上げていく教育環境が大事である」と述べた。近藤教育長からは、答申への感謝の言葉をいただいた他、「長期展望のもと、少子化対策、学区再編を市民の理解を得ながら取り組んでいきたい」との考えの表明があった。

以上、挨拶に代えての答申の報告を終わる。

【報告事項】

- 教育長 : 令和4(2022)年4月14日に学区等審議会へ市立小・中学校の学区再編について諮問し、同年10月31日に第1次答申を受けた。その後、継続して審議いただき、昨年12月26日に、第2次答申を徳永副会長立ち会いで、阿部会長から確かに承ったところである。その後、市及び教育委員会で協議を重ね、本日、総合教育会議を経て、令和8(2026)年度統合計画を決定したので報告する。
- 事務局 : 配付資料「学区再編方針における令和8(2026)年度統合分の計画確定について」を全文読み上げ。
- 事務局 : 質問や要望はないか。
- 会長 : 諮問事項については答申どおりなので、特に申し上げることはない。
要望について、それぞれ回答があった。いずれも前向きな回答だが、若干抽象的という印象がある。具体的に何をするか明確になっていない部分がある。この前向きな考えの上で、できるだけ早く具体的にどうしていくかということを考えて実行してほしい。
- 委員 : 2ページの(4)「②学校がなくなる地域での地域づくりへの支援」につ

いて、是非これには力を入れてほしい。子どもはその地域にいるが、今まで核としていた学校がなくなることは、地域住民には抛り所がなくなるような感じになってしまう気がする。人口が少なくなることがないよう、市として地域づくりの支援を行ってほしい。

委員： 2ページの(4)の回答で「今後の市立小・中学校の在り方については、引き続き長期的かつ全市的な視点での検証が必要」ということについて、少子化で困っていることは、全国的に同じ状況である。全市と言わず、市を越えた統合の可能性の検討も必要である。統合は絶対必要だと思うが、隣接する市町村とも協議しながら、子ども達が負担なく、寄り添った解決策も併せて検討してほしい。

委員： 今の意見は、「市町村を越えた組み合わせもある」ということか。

委員： 西山地区のことだが、今この場で言うことは違うとは思いますが、今後の計画において、そういう場所も含まれてくるので、その可能性も視野に入れてほしい。出来ないなら出来ないで仕方がないが、一度検討したうえで結論を出していただきたい。

委員： 市の説明を聞き、ほっとした。説明した内容を確実に実行してほしい。

委員： 会長が言われた通学バスの乗り換えについて、市はどのように対応する考えか。

事務局： 通学バスについては、検討中である。今後、委託業者と配車等を含め改めて詰めていきたい。

委員： 先日、市P連で統合対象校のPTA会長、副会長で討論会を開いた。その中で、高柳小学校のPTA会長から「もう少し検討する時間が欲しかった。決まったことなので仕方がないという気持ちで受け入れた。でも、もう少し納得できる話し合いが出来る時間が欲しかった。すごく残念である」との意見があった。

2ページの(4)にスケジュールの要望を挙げてあるが、今後の統合に対しては、もう少し考慮し、事前になるべく早めに提示し、地域や保護者と話し合いを進めてもらいたい。

委員： 今回は、内容というよりは手続き的なところで、引っかかりを感じた。

この2年間を通して、地域や保護者から最初の公表の仕方に対して文句が出て、内容を検討する前にスタートで反感を持たれていた。

翔洋中等教育学校の廃校の件も同じように、保護者や生徒に一切連絡がないまま公表されたため、一部の保護者から反対運動が起こっている。理由を聞くと、「翔洋中等教育学校を廃校にすることは良いが、やり方が気に食わない」との意見である。正直、保護者の考え方自体は全く肯定できないが、人間の心理は、そういうものかなと思う。児童生徒のことを考えた統合案が反感を持たれてしまうことは非常にもったいないと思う。

今後は、スタートでつまづかないような対応を検討していただきたい。

委員： この2年間、統合について勉強になったが、一番身近な高柳小学校と鯖石小学校の統合に当たり、今、話し合いをしながら前向きに進んでいると思うが、いろんな意見を聞くと、今後も課題が出てくると思うし、悩んでいる部分もあると思う。

統合後の統合された学校側の保護者の思いを大切にしてほしいが、それより、統合を受ける側の地域住民がどこまで理解しているかが非常に悩むところである。統合は対等であるべきだと思うし、それぞれが納得いくような、また、地域としてどう受け入れるべきかということを考えられる働き掛けをお願いしたい。

委員： 要望(4)の「⑦統合一本に絞るのではない再編の在り方、小規模特認校などの研究」についてだが、私は市内に小規模の学校も必ず残すべきであると思っている。

2年間、いろいろな学校を見学したが、小規模でも魅力のある学校をたくさん見てきた。より良い環境のためには、ある程度の人数を確保することは必要だと思うが、子ども達は多様化している。小規模校で学びたい、学ぶべ

き子どもは必ずいると思うので、いろいろな学校があっても良いと思う。魅力のある学校づくりを含め、今後、統合案を検討してほしい。

委員：すでに市民に周知されている方針を審議会で再度検討することについて、私は当初から疑問に思っていた。やはりスタート時点のやり方が市民の反感を持たせてしまったと感じている。

昨年、新潟日報に加茂市の学区再編関係の記事が載っていた。「令和何年度に統合」ではなく、「中・長期的にこういう姿でなければならない」ということを、市民に問いかけた記事であった。このような方法が一番良いと思った。

最初のスタート時点がまずかった。ある地域では、非常に感情的になったと感じた。2年先ではなく、中・長期的に柏崎市はこうであるべきということをもっと考えてもらいたい。

委員：当局からの説明では、「予算のこと、お金のことは関係ない。子どもの教育環境を良くするために、検討をお願いしたい」とのことであった。私はお金のことも関係してくると考えている。「一番大事な総合計画上で、予算抜きに子どもの教育環境だけでは語られない」と発言してきた。お金のことを考えないのであれば、小規模校でも良いと思ったこともあった。

事務局：ほかに質疑、要望があれば、近藤教育長が、お礼の挨拶をします。

教育長：2年間、30回にわたる審議会、大変お疲れ様でした。本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

委員の皆様からいろいろのご要望、あるいはご指導を賜りましたが、誠にもってそのとおりだと思いますし、しっかりと承り今後活かして参りたいと思っております。

12月26日に第2次答申をいただきましたが、大筋で認めていただきましたこと、本当にありがたく思っております。個人的には、ほっとしたところがございます。ともすると、行政の独りよがりというか、暴走になりがちなものを、審議委員の皆様から、市民の代表、あるいは第三者的な立場から審議を賜ったこと、その間には地域に出かけ、地域の皆様、保護者の皆様と会合を重ねながら進められて来たことに感謝申し上げます。

教育委員会としては、子ども達のより良い教育環境づくりに向けて今後も全力を挙げて取り組んでいきたいと思っております。

本来であれば、一つ一つのご意見、ご要望に対してお答えすべきところですが、お礼という形で、それに代えさせていただきます。

最初に阿部会長が言われたように、本日が皆様方とお会いできる最後の機会と思っております。本来であれば、お一人お一人にお礼を申し上げたいところですが、時間の関係で大変失礼ですが、割愛させていただきたいと思っております。

改めて、今回の答申を十分に活かし、子どもができることを全力で取り組み、子ども達により良い学習環境、教育環境を充実させることをお誓い申し上げます。

結びになりますが、2年間ご尽力いただいたことに重ねてお礼申し上げますとともに、今後とも、それぞれのお立場からご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。審議委員皆様のお一人お一人のご多幸、ご活躍をお祈り申し上げます。お礼の言葉とさせていただきます。

本当にたくさん課題、宿題を頂戴しました。全力を挙げて頑張ってお参りたいと思っております。大変ありがとうございました。

事務局：続いて、櫻井市長がお礼の挨拶をします。

市長：今日は、第30回の学区等審議会に、阿部会長、徳永副会長をはじめ、各委員の皆様からご参集を賜りまして本当にありがとうございました。今ほど教育長からご挨拶申し上げますが、まずもって皆様にお伝えしたいのは、「本当にありがとうございました。心から感謝を申し上げます」ということであります。

今朝の新潟日報は、今日の学区等審議会の最終回を待つかのように市の令

和6（2024）年度予算の編成方針についての記事が載っていました。その中で子どもの数、出生数についての記載がありました。令和5年1月1日から12月31日まで、柏崎市内で生まれた赤ちゃんの数、いわゆる出生数は320人でありました。そして、1年前は396人でありました。つまり昨年1年間で、70数人、出生数が減ってしまったということです。実は昨年の9月ごろ、今年の出生数はどれくらいになるだろうと、1月から9月までの段階で見込んでいた出生数は、令和4年度、2022年度よりも少ないだろうから360人ぐらいと、関係者と話していましたが、更にその数字を下回り320人といった、非常に厳しい実態でございました。

皆さんに学区等審議会の委員をお願いした2年ほど前に、私が議会で申し上げた数字は20年前、つまり世紀が変わる頃、2000年、2001年頃、柏崎市内で生まれた出生数は約800人であった。そして2020年、2021年、市内で生まれた赤ちゃんは400人になったと、つまり20年で半分になったと、いろいろなところで話をさせていただき、高柳地区でも、鯖石地区でも話をさせていただきました。

ところが、今ほど申し上げたように、更にこの少子化が、歯止めが掛からない厳しい状況で、320人という数字。あと20人も欠けてしまえば、200人台になります。前にもお話しましたが、私は、今年62歳になります。柏崎小学校出身で、同級生は230人です。一つの小学校の1学年で230人でした。ところが、今は、市内全域で320人でございます。

先ほど、皆様方からいただいた、お一人お一人のご発言、ご意見をメモさせていただきました。私にとって、このメモは大事なものとして、ずっと整えておきたいと思っています。

私は政治に身を置く人間ですし、学校の設置者という立場であります。教育の中身に関しては教育長がその責任を担っていますが、学校の設置者として市長が責任を持たせていただいています。

今ほど申し上げた厳しい現実の中で、あえて申し上げますけれども、私の不徳であるがゆえに、先ほどから何人かの委員さんからもお話しがあった、スタートの部分は私の不徳であります。

こういったことも含めて、今ほど皆さんと共有をさせていただきました学区編成、再編方針における令和8年度、2026年度統合分の計画確定といったことを、今日の総合教育会議の場でも、4人の教育委員の方々も共有をさせていただいたところでございます。4人の教育委員の方々も、「内容に異存はない」とのことでした。いろいろなご意見もありましたけれども「皆様がまとめていただいたこの答申、計画に異存はない」「心から感謝をする」という言葉が、教育委員の皆様からも聞かれたところでございます。ご報告を申し上げます。

学区再編計画は、先ほど確定版になりました。その前提となる答申を私は何度も拝見しました。

数は分かりませんが、全国における学区等審議会における答申文をかなり読ませていただきました。これはお世辞ではなく、今回皆さんが出していただいた答申文は素晴らしいものです。私にとってみれば、非常に厳しい内容も多く含まれております。あえて申し上げるならば私への批判も多く含まれております。そういったことも含めて、素晴らしい答申であり、心から感謝申し上げます。

しかし、厳しい言葉遣いはありますけれども、その裏には30回も重ねていただいた皆様の真剣な議論、子ども達のことを思い、そしてまた子ども達を支えてきた地域の方々に思いを巡らせた温かみだったり、もしくは、優しさを感じる、行間に感じさせる厳しくも率直な、素晴らしい答申だと私は考えております。

結びにあたり、改めて、阿部会長、徳永副会長を始め、委員の皆様には、ときに地域の方々、地域の保護者の方々から厳しい言葉を投げ掛けられ、不愉快な思いをされたことも数多くあったと、全部の議事録を読ませていただ

き、あったに違いないと拝察します。お詫びを申し上げます。大変申し訳ありませんでした。皆さんにまでつらい思いをさせてしまったことをお詫び申し上げます。

そういったプロセスを経て、素晴らしい考え方の中で子ども達のことを思い、そして今後の道筋もしっかりと導いていただける、私や教育長に対して「しっかりとこの方針を遵守するように」という強い意志を感じさせる答申をいただきましたことに心から感謝を申し上げ、私の感謝の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

【その他】

なし

【閉会あいさつ】

会 長 : 大変お疲れ様でした。正直申し上げて、自分でもほとんど想定していなかった学区等審議会委員という仕事を引き受け、更に会長として、会の運営を務めさせていただきました。学区等審議会の最大の責務は、言うまでもなく、諮問を受けた学校統合案に対し、決められた期限内に意見を取りまとめ、きちんと答申を行うことでした。このことにつきましては、無事に責務を果たすことができたと思っておりますが、これは先般も申し上げたとおり、委員の皆様の熱心な議論と、答申をまとめることに向けての前向きな気持ちがあったからです。

審議会の委員、会長としての役割を終えることとなりますが、今後も柏崎に住み続ける一市民として、学校統合のことや、関連する問題である人口減少、まちづくり、地域活性化の現状や課題については関心を持ち続けたいと思っております。

2年間支えていただいた委員の皆様、徳永副会長さん、事務局の方々に感謝申し上げ、また、皆様お一人お一人の今後一層のご活躍をご祈念しまして、最後の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

副会長 : 大変お疲れ様でした。ようやく最後の会となりました。役目をお引き受けして、長くもあり短くもあり、何か複雑な気持ちで過ごして参りました。

それぞれの立場で賛否両論ある中で、皆さんが、とても熱心に議論していただき、最終的に、大筋で一つの方向を向けた、同じ意見に辿り着けたということは、とても意義深いことだと思っております。この間、阿部会長さんにおかれては、難儀をされたと思いますし、本当にご苦勞もあったことと思います。感謝を申し上げます。

余談になりますが、この役を引き受けて阿部会長さんにお会いした時にお願いしたことがあります。それは、「新型コロナの予防接種をきちんと受けてください。阿部会長さんがいないと答申はまとまりません」とお願いしました。私自身も、予防接種は受けましたが、「阿部会長さんの隣の席を空けないように」ということだけを念じて務めて参りました。お陰様でこの日を迎えることができほっとしております。

この間、委員の皆様からは、本当に貴重なご意見をたくさんお聞かせいただきましたし、熱心に議論していただきました。ときに息詰まるような時もありましたが、ここまで来れたことに「皆さんの力はすごいな」ということも感じています。貴重な機会を与えていただき感謝申し上げます。お名残惜しいです。

どうぞ、皆様のご健勝で、益々活躍されることをお祈りいたしまして、最後の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

教育部長 : 皆様、大変お疲れ様でございました。市長と教育長が挨拶した後でございますが、事務局を代表して、私からも一言ご挨拶させていただきます。

柏崎市学区等審議会は、令和4年、2022年4月14日に第1回を開催し、近藤教育長から20名の委員の皆様へ人事発令通知書を交付させていた

いただきました。委嘱の期限は、今年3月31日まででございますが、本当に委員の皆様から献身的にご審議をいただき、本日の第30回が最後の審議会となりました。直接こちらから委員にお願いさせていただいた方、いろいろな団体を代表してご参加をいただいた方、そして、公募委員として自ら手を挙げていただいた方が、毎日のお仕事がある中で、少子化が著しく進行している状況において、子ども達にとってより望ましい教育環境を整えるためにはどうすべきかということを実際に一生懸命ご審議いただきました。

教育委員会が各学校区で開催した説明会や意見拝聴会にご同席をいただいた他、審議会の皆様が主催した意見交換会にとどまらず、学校を訪問されたり、地域やPTAの方と個別に意見交換の場を設けていただくなど、結論を導き出すための情報収集に、本当に懸命に取り組んでいただきました。このことに対して感謝するとともに、私達事務局側から情報提供などにおいて、多々、至らないところがあったことをお詫びいたします。

私達にとって、これからの課題といたしましても、見送りとなっております第五中学校のこれからのこと、それから令和12年度、2030年度に統合の方針を掲げております中学校区の地域の方との話し合い、そして審議会の皆様からもご要望いただいております長期的な視点に立っての小・中学校の在り方や再編の検討など課題がたくさんございます。それら一つ一つにしっかりと組織として対応していけるよう検討を重ね、そしてまた、地域の方、保護者の皆様との話し合いを大切に、ことを前に進めていきたいと考えております。

本当に2年近くにわたりまして、委員の皆様には難儀をお掛けいたしました。阿部会長、徳永副会長、そして全員の委員の皆様にご感謝を申し上げ、事務局からのご挨拶とさせていただきます。大変お世話になりました。ありがとうございました。

以上、相違ないことを確認する。

令和6年（2024年）1月31日

会 長 阿 部 義 章

副会長 徳 永 優 子